

# 令和4年度の取組み

北九州市立美術館

## 令和4年度の事業展開

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、ウィズコロナ時代の美術館の在り方を模索しながら、『北九州市立美術館運営5カ年計画』に沿って、以下の事業を展開する。

特に、自主企画展の実施及びそれに関連する資料収集・調査研究にかかる事業に重点的に取り組む。

### 1 作品 ～資料収集・環境管理・保存～

#### (1) 収集活動の継続

開館以来の収集方針や所蔵内容を踏襲しながら、持続可能な収集活動を目指す。収集対象は、下記の分野に重点を置く。

- 現代の多様性を示す優れた作品
- 地域の美術史を構築する上で欠かせない作品
- 近現代美術史の展開をたどる既存コレクションの充実・補完

#### <令和4年度の取組み>

- ① 既存コレクションを充実・補完するため、所蔵作家の調査に基づいた作品・関連資料を収集する。
- ② 各企画展や「guest room」※など、当館事業に関わる作家の調査に基づいた作品・関連資料を収集する。

#### 【評価指標】

- 美術作品の収集内容

※guest room

現代作家の招待展示企画

(2) 作品修復、作品保管環境の整備

所蔵作品・資料の管理に必要な保管環境を整備し、必要に応じて作品修復を行う。

<令和4年度の取組み>

- ① 緊急性の高い作品から順次修復を行う。
- ② 日常的に収蔵庫内の点検・清掃を行い、作品と保管環境の安全を確認する。

**【評価指標】**

- 修復作品の内容・選定理由
- 収蔵庫の環境整備状況

(3) 美術資料・図書の一括管理

当館所蔵の作品及び図書データベースを整備し、開館50周年となる2024年の一般公開を目指す。

<令和4年度の取組み>

- ① 作品データベースの資料作成、精査を行う。
- ② 図書データベースの資料作成、精査を行う。
- ③ 作品・図書をよりよく運用するための整理を行う。

**【評価指標】**

- データベースの整備と公開に向けた取組みの状況

## 2 公開 ～調査研究・展覧会～

### (1) 新鋭作家の継続的な紹介と評価

企画展や guest room を通じ、新収蔵や研究発表を見据えた新鋭作家の調査を行う。

<令和4年度の取組み>

- ① コレクション展における特集展示「guest room 第7回展 田中武」、自主企画展「ホログラフィ・アートの先駆者 石井勢津子」、共同企画展「祈りの軌跡・藤原新也展」を開催する。

【評価指標】

- 作家についての調査内容

### (2) 所蔵作家のアーカイヴ整備、研究論文・口頭発表

所蔵作家に関する対面調査、資料収集を蓄積し、研究論文、口頭発表等を行う。

<令和4年度の取組み>

- ① コレクション展における特集展示「guest room 第7回展 田中武」、自主企画展「ホログラフィ・アートの先駆者 石井勢津子」、共同企画展「横尾龍彦 瞑想の彼方」「祈りの軌跡・藤原新也展」の開催にあたり、論文公開や口頭発表を行う。

【評価指標】

- 研究成果の件数・内容

(3) 特色ある展覧会（コレクション展・自主企画展）の実現

調査研究に基づいたテーマ性の豊かなコレクション展や自主企画展を開催する。

<令和4年度の取組み>

- ① テーマの異なる3つのコレクション展（「没後30年 平野遼」「ひろがるイマジネーション」「浮世絵に見る江戸の名所」）を開催する。
- ② 地元にはゆかりのある作家の共同企画展として「横尾龍彦 瞑想の彼方」を開催する。
- ③ 現代作家を紹介する自主企画展として「ホログラフィ・アートの先駆者 石井勢津子」を、共同企画展として「祈りの軌跡・藤原新也展」を開催する。

【評価指標】

- 企画の内容

(4) 他館や他機関と共同企画の実施

他館、他機関と協同し、連携企画展や共同調査を行う。

<令和4年度の取組み>

- ① 神奈川県立近代美術館、埼玉県立近代美術館と共同で企画展「横尾龍彦 瞑想の彼方」を開催する。
- ② 北九州市立文学館、世田谷美術館と共同で企画展「祈りの軌跡・藤原新也展」を開催する。
- ③ 東京都美術館、神戸市博物館と共同で企画展「スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち」を開催する。

【評価指標】

- 連携の件数・内容

### 3 交流 ～教育普及・地域交流～

#### (1) 学校と連携した学習プログラムの実施

教育現場や教育委員会と連携し、小中学生等が美術に触れ、楽しむ機会を広げる事業を実施する。

##### <令和4年度の取組み>

- ① 引き続き全市立小学校（129校）と特別支援学校（7校）3年生を対象に「ミュージアム・ツアー」を実施し、対話型鑑賞を実践する。
- ② 市内の私立（3校）・国立（1校）の小学3年生についても「ミュージアム・ツアー」への参加を促す。

##### 【評価指標】

- 参加校の満足度
- 実施状況

#### (2) 特色あるワークショップ・講演会の実現

子どもから大人まで幅広い年齢層を対象にしたワークショップ、講演会、ギャラリートーク等を実施する。

また、複数年にわたり継続した市民参加型のアート・プロジェクトを実施する。

##### <令和4年度の取組み>

- ① コロナ禍社会に対応したワークショップを実施する。
- ② 長期ワークショップ「ぬいかけの植物園計画室」を実施する。

##### 【評価指標】

- 参加者の満足度

### (3) ボランティア組織の運営

現代の社会状況に対応した、独自の自立型のボランティア制度を構築する。

#### <令和4年度の取組み>

- ① プロジェクト班、鑑賞サポート班、美術情報班の3班のボランティア活動を支援する。
- ② ボランティア活動を充実させるための情報提供・研修を行う。

#### 【評価指標】

- ボランティア制度の運営状況

※ボランティア数 30名（令和4年2月末現在）

### (4) 他館や他機関との連携

他館や他機関との連携を促進し、同時に連携の内容を工夫する。

#### <令和4年度の取組み>

- ① 北九州芸術劇場と協力し、コレクションをテーマとした演劇公演「画狂老人@北斎」を行う。
- ② 北九州市立文学館と連携し、「祈りの軌跡・藤原新也展」を同時開催する。

#### 【評価指標】

- 参加者の満足度

#### 4 広報 ～利用促進のための情報発信～

##### (1) 現代社会に対応したマーケティング、広報戦略

展覧会等の傾向や予想される観客層などを分析し、SNS等も活用した効果的な広報活動を行う。

また、外国人向けの広報も充実させる。

##### <令和4年度の取組み>

- ① 新型コロナウイルス感染症対策のため、アンケート調査が難しい現状を踏まえ、美術館に対する市民のニーズ、展覧会等の傾向や観客層等を分析する方法を検討する。
- ② SNSを活用した広報を充実させる。
- ③ 市民に対するPRを充実させるため引き続き市民センター（136館）に利用を働きかける。
- ④ 外国人向けの広報については、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて行う。

##### 【評価指標】

- 分析方法の検討内容
- SNSの活用状況
- 市民センターの活用状況

##### (2) 他館や他機関との連携

来館促進のための連携先の確保と、連携の内容を工夫する。

また、美術館友の会の活用を図る。

##### <令和4年度の取組み>

- ① 他施設（例：小倉城等の観光施設）と連携して共通チケット発売や広報を行い、来館促進を図る。
- ② 美術館友の会会報誌による展覧会情報等の発信に努める。

##### 【評価指標】

- 連携の件数・内容

## 5 環境 ～快適なアメニティ空間の演出～

### (1) ミュージアム機能・設備の強化

美術館内外の環境について、館の安全確保と適正管理に努める。

また、ホスピタリティマインドの向上に努め、市民に開かれた美術館を目指す。

加えて、老朽化が進んでいるアネックス棟の整備計画の検討を行う。

#### <令和4年度の取組み>

- ① 本館身障者用エレベータ更新工事を実施する。 ※1
- ② アネックス棟の整備計画を検討し、予算の確保に努める。
- ③ 所蔵作品の適正管理のため、収蔵庫の燻蒸を行う。
- ④ 警備、清掃、受付・監視等の現場会議を行う。
- ⑤ 老朽化に伴う事故を防止するため、建物（建築・設備・消防等）点検を徹底する。
- ⑥ 来館者サービス向上のため、カード決済について、本市全体での取り組みや当館での電子マネーの状況を踏まえてさらに充実させる。 ※2
- ⑦ 美術館友の会と連携し、ミュージアムショップの充実努める。

#### 【評価指標】

○実施状況

※1 令和4年度設計実施 施工は令和4年～5年度実施

※2 令和3年10月から電子マネー（PayPay）決済を導入。  
PayPay 決裁割合約10%（金額ベース）